

# 滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和6年度第1回会議

日 時 令和6年（2024年）7月26日（金）

14時00分～16時30分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

## 会 議 次 第

### 1 開 会

### 2 報告事項

- （1）クラウドファンディングの実施について
- （2）第32回企画展示について
- （3）湖上交通を活用した体験型観光・環境学習事業について

### 2 議 題

- （1）第三次中長期基本計画令和5年度評価について
- （2）その他

## ○開会

司会（杲副館長）：定刻になりましたので、ただいまから第一回琵琶湖博物館協議会を始めさせていただきます。まず開会にあたりまして、亀田館長からご挨拶させていただきます。

亀田館長：本日はお忙しい中、またお暑い中、委員の皆様には当館の博物館協議会にご出席いただきましてありがとうございます。この4月に館長に就任いたしました亀田です。博物館の発展に尽力したいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

さて、前回の協議会は1月に2回目を開催いたしました。皆様からご意見を頂き、おかげさまで令和4年度の事業評価報告書と議事録を、博物館のウェブサイトで公開することができました。既にご覧いただいている方もあろうかと思いますが、よろしければご確認くださいと思います。

本年度に入りまして、4月23日にはトンネル水槽を再開し、また6月23日には、「よみがえれ日本の淡水魚」コーナーの亚克力交換が完了し、展示を再開することができました。現在、破損したオオナマズ水槽や同じ形のコアユ水槽の設計、工事に取り組んでおり、再建を行っているところです。そのことについて、また後で話があるかと思いますが、クラウドファンディングも実施する予定です。

本年度の企画展示は第32回になりますけれども、「湖底探検Ⅱ～水中の草原を追う～」というテーマで、おかげさまで7月20日にオープンすることができました。このあと担当の者からご案内させていただきますので、お時間のある方はぜひご覧いただければと思っております。

そういった喜ばしいこともあります。一方でギリギリの運営をしているところがあります。おとといの豪雨によって、B展示室の前で雨漏りがありました。雨漏りは、翌日にはほぼおさまりましたが、昨日はC展示室等で電気がつかないなどのトラブルがあり、館内あげて対応したところです。そういった様々なことがあります。みんなでなんとかより良い博物館活動が続けていきたいと思っております。プラスの面やマイナスの面も含めまして、みなさまからご意見をいただきたいと思います。本日は、令和5年度の事業評価についてご議論いただければと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

杲副館長：本日、司会をさせていただく副館長の杲でございます。議題に入ります前に定

足数を報告いたします。本日の会議は、岡田委員、楠見委員、中川委員、布谷委員、野瀬委員が欠席となります。なお、廣瀬委員、澤田隆文委員についてはご異動ということで、後任として、澤田一彦委員、楠見委員に新たにご就任いただいております。本日お越しの澤田委員より挨拶をいただきたいと存じます。

澤田委員：失礼します。この度はよろしく申し上げます。現在は、志賀中学校で校長をしております。博物館の準備室時代からお世話になっております。子どもたちもたくさん楽しみをいただいております、中学校の教科書にも載っているということで、大変素晴らしい博物館だと思いますので、少しでも力になれるよう頑張りたいと思います。

梶副館長：ありがとうございます。琵琶湖博物館協議会については、滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例第9条2項の規定によりまして、委員の半数以上が出席する必要がありますが、本日は13名の委員の方のうち、8名の方に出席いただいております、半数以上の出席があることから、定足数に達しているとのことで、本日の協議会は成立していることを申し上げます。会議の議事進行については、村上会長に行っていたくことになっておりますので、議事進行を村上会長にお渡ししたいと思っております。では、村上会長よろしくお願い致します。

#### ○報告事項

村上会長：ご紹介にあずかりました会長の村上です。それでは議事の進行をさせていただきますので、みなさまご協力をよろしくおねがいします。会議の次第に即しまして報告事項があるようです。事務局から報告をお願いします。

梶永企画・広報営業課長：お手元の資料を御覧ください。ナマズが写っているチラシの裏面を御覧ください。これは第一弾のクラウドファンディングについての報告です。796人もの方から寄付をいただき、寄付金額1159万3000円の寄付を頂きました。達成率は231.9%でした。返礼は特別感謝状を配ったり、バックヤードツアーや内覧会を実施しました。現在準備しているクラウドファンディング第二弾です。オオナマズ水槽とコアユ水槽についてです。8月下旬から実施予定です。企画展示のチラシを御覧ください。研究部長の芳賀部長が担当しています。本会終了後に芳賀部長が案内します。湖上交通を利用した環境学習のチラシです。県内に宿泊された方などに訪れていただきたいという思いがありました。以前は定期航路がありましたが、2018年までは期間限定で、それ以降はなくなりました。今回、連携事業として、夏休みに6回実施する予定の事業です。

報告は以上です。

村上会長：ただいまの件についてご質問はいかがでしょうか。

田淵委員：今の3点は知事会見でも話されました。質問は2点。1点目は、先週 SNS を活用した発信をテーマに職員研修があり、通訳に入りました。博物館の方も受講されており、クラウドファンディングの件で講師に質問されました。その内容が「どうやったらお金を持っている人をターゲットに絞れますか。」という残念な質問でした。クラウドファンディングは手法であって、お金を集めるだけが目的ではなくファンを増やすという意味もあると他の研修で聞きました。困っていることを知ってもらって興味を持ってもらうことが大事であって少額でもたくさんの人にかかわってもらうことを大切にしてほしい。スマホが使えないと関われないというマイナス面もある。2つ目は、乗船イベントの件。長い夏休み、親御さんが子どもをどこかに連れて行くところはないかなと調べた時にヒットするのか。教育分野につながっているのか。ターゲットと媒体のアクセスのしやすさを広報で考えているのかお聞きしたいと思います。

榊永課長：ありがとうございます。田淵委員委員がおっしゃったことはもっともだと思う。まず1点目のクラウドファンディングは我々もそういう考えで行っていて、第一弾もたくさんの人から支援を頂いている。今回もそうしたいと思っており、ファンを広げたいというのが根底にある。みんなでつくる新水槽という合言葉が示しているとおり、小学生からおじいちゃん、おばあちゃんまでみんなでやっ払いこうという思いがあります。QR コードがついているチラシは自分たちで作ったものだが、来月にはクラウドファンディング用のチラシができ、そこには振込の仕方などスマホでなくてもできるようにしている。船については、雄琴温泉の人たちがチラシをつくって広げている。琵琶湖博物館では SNS で発信していこうと思っている。

田淵委員：リターンの話だが、こういうリターンがされることは前もってわからないのか。アクセスしないとわからないのか。

榊永課長：実際にお配りするチラシについては、大まかなリターンについての紹介は掲載されますが、全部は載せられないため、ホームページを見ていただく必要があります。

田淵委員：他の博物館だと実のあるものを配ったりしている。無料券をあげたりすることや、琵琶湖博物館でしか手に入れないような写真を壁紙としてあげるとか、ここでしか手に入らない、または来館につながるような仕掛けはできないか。

榊永課長：ありがとうございます。私たちもいろいろなことをしたいが、一方でふるさと納税型は、対価的なプレゼントは渡せない事情がある。招待券についても金券扱いとなるためお渡しできない。感謝状のポスターも感謝状といって渡している。壁紙に関してはできることなので進めていきたい。

村上会長：他にご意見等はいかがでしょうか。

中野委員：船の件は、琵琶湖博物館ではどうにもならないが、片道の料金ではなく往復の料金になるのか。

榊永課長：片道でも、往復でも料金は千円になります。

### ○議題１：第三次中長期基本計画令和５年度評価について

村上会長：それでは他に質疑等ないようですので、議題に入ります。令和５年度について内部評価についてとなります。事業目標の項目が６つありますので、説明および質疑を２項目ずつ区切って行ってまいります。事務局から説明をお願いします。

芳賀研究部長：事業目標１についてご説明いたします。琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介していくということですが、そのうち１-１は研究目標を深めていきましょう、１-２はどんどん情報を発信していきましょう、１-３はそのための環境を整備しましょうということで進めております。１-２については順調にできており、J-STAGEで研究報告書を公開しておりますが、ダウンロード数が１３,０００件を超えました。PDFのダウンロード数が非常に増えています。研究を進める１-１については今回の企画展示も総合研究の成果をいかしたものです。それ以外にも、去年ニュースになったものですが、伊吹山の植物についてニュースになるようなものも発信できています。残念なことに、お金がかかる備品整備は進展が難しいところでもあります。事業目標については以上になります。

大槻資料活用係長：参考資料と評価を使って説明いたします。まずは事業目標２のコンセプト、そこから説明いたします。事業目標２は資料を未来に残し、どこからでも使えるように整備する。事業目標としては、貴重な資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整備、保管を進めるとともに、ICTを活用した利用法の開発により、博物館の知的資源、誰でもどこでもいつでも使えるように整備することとなります。内部評価図により説明させていただきます。我々としては、２-３のICTの活用がとても進んだと感じています。それ以外は横ばいとさせていただいていますが、それなりには進んでいま

す。2-3 は DX 事業が始まったことを評価しています。2-2 の公開については、画像データを順次公開しており、高校生やメディア関係者に利用されています。。琵琶湖特有の魚の資料がほしいという要望をいただいているところです。2-1 は予算との関係が大きく、収蔵庫空間の改善は今の予算では難しい状況です。今年度は、トラックヤードの入口の改修をする予定です。全体としての現状は良くなっていると思います。

村上会長：ありがとうございます。それでは、ただいまの事業目標 1、2 についてご質問、意見等お願いいたします。

田渕委員：どの事業よりもここを注目しています。前回は発言させていただいたが、本当に誰でもどこでもいつでも使えるというところ。本当に見える化が進んで、デジタル活用できるような、興味のある方がどんどんアクセスしてくださって、活用が進んでいるのはすごくいいことだと思うんですけど、そんな中で、読書バリアフリー法やいろんなことが進む特別支援教育の分野で、外にいる方が博物館に来て楽しめるというところは触る展示などを駆使して一定進むとは思いますが、なかなか来ることが難しい特別支援学校の子たちに、それを見える化するというか、来れなくても見せてあげたり、楽しめたり、そういうことができないだろうかとお話させていただいたと思うんですが、そこは進んだのでしょうか。なかなかそういうところにアドバイスがないと手を出せない現実があるように思います。初任研修では博物館に見学に来て、学校の先生方に見学してもらって、ぜひぜひ子どもさんをたくさん連れてきてくださいってやり方をするんですけど、そういうところに投げかけるような研修ができないでしょうか。画像でやるとか、視覚障害の人たちには音で楽しんでもらうとか、説明文を読めというのはわかりづらくても、匂いや風を感じるなど是可以するかもしれない。そういうところが展示には活かされているだろうが、もう一歩進んでもらって、それを外に出すことを工夫できないでしょうか、そこに繋いでいっていただきたい。

大槻係長：なかなかプログラムと教育を連携することはまだできていませんが、DX 事業では音を使ってやることも進めており、昆虫の鳴き声を、今収録しています。以前、目が見えない方が暗闇の中で展示を案内するというプログラムをやったときに、聞き方が全然違うなどのことがありまして、目が見えにくい方、耳が聞こえにくい方でもいろんなことが聞けるようなコンテンツを DX で開発中です。それを学校の人たちに使ってもらうためのことは、ウェブ GIS の事業については、地図上に昔にいた生き物の分布などを示

めすようなことも、昔と今というコミュニケーションに使うなどのことも目指しています。自然調査ゼミナールというイベントでもつかってみることを考えています。

村上会長：他にご意見、ご質問はありますか。

遠藤委員：2-1 の標本の管理体制の強化について、前のときにも、管理していくうえで様々な問題があると聞いたが、空調の修繕については、現状は、先送りで持ちこたえられるのか、切迫度合いはどうか、まずお伝えしていただきたいのと、予算取りをするときの訴え方はどうか、県の方も、議員も資料保存の大切さについてはわかってもらえないことが想像されるが現状を教えてください。

大槻係長：空調設備の老朽化により、現状としては湿度管理がとても難しい状況です。空調設備については、収蔵庫の会議をするところで方針の話し合いをする予定です。収蔵庫にを入れる前に燻蒸をしています、その薬品が来年度から使えなくなることが博物館業界で問題になっています。今日もそのことを他の博物館に聞きに行っています。本日の午前中に産業医の方といっしょに収蔵庫の作業場環境についても見に行きました、予算担当の方からは、県の財政関係者に積極的に話をしに行ってもらっています。

村上会長：他にご意見、ご質問はありますか。

荒井委員：1-3 のところなんですけれども、大型備品の軟 X 線装置というのは、どういったものでしょうか。

芳賀部長：一種のレントゲン装置のようなものです。昔から使っている軟 X 製の装置が古くなったので、あげております。骨や魚の歯を撮影したものを展示しておりました。今使っているのはフィルムに写して現像するタイプになりますが、それをデジタル変えたいということであげています。ただ高いものになりますので予算の確保が難しい面もありますが、これ以外にもたくさん必要な備品があるので、他との関係で実施してまいります。

村上会長：それでは続きまして、事業目標の 3 と 4 について、事務局から説明をお願いします。

楊環境学習・交流係長：事業目標 3 について説明させていただきます。3-1、幅広いニーズに応える交流事業の充実については、イベント系事業と連携系事業を重視しながら進めていきました。参加イベントを 3 つのものを中心に進め、1 つは大型家のイベントを 3 件実施し、それからフィールドレポーター調査においては、今年は一般の方が 2,893 名ご

協力いただきまして、広くご参加いただきました。あと、地域連携系の事業を 66 件行いました。3-2 出会いの場の創出は主にびわ博フェスを通じで実施し、そこでは新たにトーク型の発表会の 3 分間トークも行いました。アンケートを実施した結果、交流の場をもっと増やしてほしい、他のグループと交流ができて良かったと多くの回答がありました。3-3 は研修と体験学習を中心としながら、教員の方に行ってきました。研修後のアンケートでは 9 割以上の教員が意識していると回答したほか、種々の関心を示しました。今後の課題としては追跡調査やアンケート調査、今後の館内の利用や工夫の仕方を含めて進めていきたいと思っています。

芦谷展示係長：事業目標 4 は、もっと使いやすい博物館ということで、展示室を入口とした博物館の利用をさまざまな形で促進し、博物館をより豊かで深いものにするというような内容になっております。3 つの事業目標からなり、誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長、見る展示から、見るプラス使う展示への成長、社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長となっております。4-1 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長につきましては、ポケット学芸員の内容を少しずつ充実させています。4-2 見る展示から、見るプラス使う展示への成長については、大きな変化はありませんが、使えるコンテンツを少しずつ充実させております。例えば、展示交流員おすすめの展示ですとか、そういった今まで博物館から掲示している情報ではないソフトな内容も追加しており、より親しんでもらえるよう進めているところでございます。4-3 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長は、地域の方や他の機関と一緒に研究したり、連携事業を行ってきたり、日頃の様々なお付き合いの中から新たな情報を展示しておりますし、展示室の全面的な更新は難しいんですが、事業的な、イベント的な要素を取り入れて新しい内容の展示を行っています。事業目標 4 は評価図では、3 つともやや進んだということで前年度よりも良くなったと内部評価を行っています。前提となりますのが、展示室でのネット環境が整うことで設備の方をしっかりとすることで、水族展示室の中央や、いくつかウィークポイントがありますが、設備の方もしっかりと整備し、ネット経由で情報が得られるように進めています。ポケット学芸員は、読みあげ以外に、例えば動画や音などコンテンツを載せていくことを進めようとしています。総括としては、令和 5 年度は水槽事故があった後に、クラウドファンディングはじめ、大勢の方に応援していただける機会も生まれましてので、より楽しく深い学びが展示室で得られるようにがんばって



行っていこうと思っております。

村上会長：只今の件についてご質問・ご意見があればお願いします。

遠藤委員：質問というより、今後の参考にしていただければという意見的な話になりますが、私がたまたま守山市の図書館で本借りるときに、子どもたちが図書館通帳をすごく意識して、楽しみにして使っているのを見かけました。要は自分が借りた本がちゃんと蓄積され、それが通帳のように残る仕組みになっている。いろんな企画展示をした時に、スタンプラリーでは満足していない子どもたちがいると思うので、展示に満足できた・できなかった、というようなことが残っていくような、お金を使わないでできるような、子どもたちに企画したことを単発で終わらないような、蓄積できるようなものがあるといいと思います。企画を考える人は一生懸命考えているが、過去の記憶は薄れていくので、何かに残って蓄積されていくようなことが、双方向な関係として残ることができるように。興味のある人は継続的に来て、何かに蓄積されていくことを検討してはどうか、という意見です。

里口事業部長：ご意見ありがとうございます。琵琶湖博物館では、来館者は家族が多く、子どもたちも来ますが、中学生になるとほとんどこないという状況があります。子どもたちが、少し大人になった時に、昔の自分が感じたことを見返したり、継続的に中学生になっても来館するきっかけになるようなアイデアをいただいたと思います。滋賀県では知事がこども政策を強く打ち出していることもあるので、そういう事業の展開も考えたいと思います。

澤田委員：湖底探検というチラシをみていて、どういう層をターゲットにしているのか、と考えたときに、ある程度学をもった人に刺さる内容かと思います。博物館の中で、全年齢にささるような仕掛けがあると思う。低年齢層ではキャラクターが好きなので、そのキャラクターが語ってくれるようなことがあったり、中学生には生態系などのキーワードがささるように思います。紙コップにいろんな生物が書いてあってそのモデルは学校で習う生態系のことがあるが、そういうことが陸上ではなく水中では見ることができない。高齢の方にささるようなことが、水草が肥料にされていたこととか、昔の魚の呼び方とか、各世代がどういうことに注目するのか、ということがあって、そこから世界が広がっていくようなことがあるといいなと思います。私は理科の知識がある程度あるから企画展示を見たいと思うが、他の人々にとってはどうか、ということを考え

ることで、裾野が増えていくのではと思います。

荒井委員：先ほど早く着いたので、企画展示を見させてもらいました。親子で見に来ていたり、小学生たちだけで見に来ていましたが、子どもたちがその展示を楽しめるか、ということがポイントかと思います。いつもだったらお絵かきコーナーがあったりとか、塗り絵コーナーがあり、子どもたちはそういう参加するとか体験することが大事なんです。そういうことが思い出にも残りますし、お土産感覚じゃないですけど、やっぱり博物館に来て印象に残るのはそういうこともあると思います。先ほどキャラクターの話がありましたが、例えばどこかにうおーたんがいて、子ども向けの説明があってもいいと思います。総合研究の成果ということで自分には見ごたえがあったが、各年齢層に心に刺さる部分があってもいいと思います。

村上会長：今の意見について事務局はいかがでしょうか。

芳賀部長：企画展示についての感想をみなさんからお聞きしたいと思うので、後ほどお願いします。現在、企画展示の関連展示として、水族展示で水草の展示をしているが、子どもたちの意見が「何もいない」という感想でした。水草は環境を示すもので、魚などの生き物がいない展示と捉えられているようです。

田淵委員：遠藤委員さんや澤田委員がいい意見を言ってくれたと思います。クラウドファンディングも数字ではなく、どういう層やどういう人達が支援してくれているのか、という調査分析が必要ということと、交流のところで、アンケートをとるのはよいが、アンケートを取って課題となるところをしっかりと拾い出して、いいところはそれを伸ばして、良くないところはそれをチャンスと思って、次に繋いでいくことが大事。学芸員方々がやっていることは優れているのでしょうけれど、繋がっていないことがもったいないと感じます。それが広報などで繋がっていくとよい。たくさん来てもらってこそ、だと思います。トイレとか、ここでいかに長く過ごしてもらおうか、ということだと思ひ、授乳室やトイレをよくするということが大事で、そこが悪ければ、長くいたくてもいられないという状況になります。そういうところが全部繋がっていくと思います。全部を横断的に繋ぐことに力を入れていただきたい。また、目線的に、水槽を見るというのは、人間が魚を見る、ということだが、逆の発想で、自分が水槽の中にいるような仕掛けができたり。水草には厄介なものもあると思うので。思いつきで言いました。あと、質問ですが、3分間トークはどういう内容でしょうか。言いつ放しなのでしょうか。

中野委員：関連して、3分間トークをしたものとしての意見としては、有意義なものではあったが、その前の年はホールであった。去年はこのセミナー室でありました。各団体の皆さん、自分たちが実施するのが手一杯で、他のグループが何か言っているところに参加したりはできない。みんな人手不足。手伝ってあげたいと思いますが、お手伝いしてほしい人がいます。全く関心のない人に知ってほしい。知っている人どうして知り合っても仕方がない。他の来館者に聞いてほしい。

荒井委員：1日目の3分間トークは、短い時間の制約の中だったのもっと時間がほしいと思いました。2日目は、他の団体の質問タイムが長く取ってあったので、私も聞いてみたいと思うことが聞けて、良かったと思いました。3分間トークは、励みになり、メリットを感じました。

中野委員：自分たちのためにはなったが、一般の人にも聞いてほしかった。

荒井委員：参加する人は、空いた時間、できるだけポスターの前に立って、いろんな来場者の人と話しができるほうがいいと思います。3分間トークは、今年もやってほしい。それと質問の時間がほしいと思います。

楊係長：中野委員委員と荒井委員から話していただきましたが、少し説明させていただきます。トーク型発表会は、当日の一般の来館者だけではなくて、グループどうしてもお互いにどういうことをしているのか、参加者の皆様の交流を互いに深めていくということを重点的にやりたいと思っておりました。昨年度まではアトリウムでやっていましたが、雑音が大きいことや話しづらいなどの意見がありました。活動紹介をしたいところが多かったので、昨年度からはこのようなやり方に変えています。遠藤委員から蓄積についての話があったように、次に繋がるような仕掛けなど含めて継続的に関わられるような工夫をしていきたいと思っています。

田淵委員：中野委員がおっしゃったのは、内容のことではなくて、参加者同士はある程度繋がっている中で、外向きに活動を知ってもらいたいという趣旨だと思う。知事会見では、ラインで友達になっていると、間もなく知事会見とお知らせが来る。できないは別にして、琵琶湖博物館チャンネルで、週に1回、同様に通知がでてくるようなものがあるとよい。活動をしていても見えない、ということが不満なのかなと思う。今日は子ども向けに話をします、とか、大人向けの知的好奇心をくすぐるような説明をします、とか今あるものに乗っていくというような。遠藤委員さんが言ったことで、積み上

げていくことが大事ではなく、ポイントが9個貯まったら10個欲しいと思ってしまったり、楽しみを持ちながら、いかに来てくれる人を増やすのかっていう意味でおっしゃったかと思います。知事が言っていることで、「ビワテク」とか「健康しが」も強くおっしゃっている。ビワテクの中に入れるかわからないが、日々の目標、ウォーキング、体操する、朝食を食べる、琵琶湖博物館に行く、それにポイントが加算されるみたいな、わかりやすいサイトで、どこかにポイントがつくとか、博物館独自にやるのはお金もかかるから、どこかに入れてもらうなどすればどうかと思います。

中野委員：大人でもおくすり手帳など、もらった薬のことをすぐ忘れる。展示のこともあるけれど、見たけれど、忘れる。人から言われて、思い出すようなものもあります。スタンプで貯めるようなものもあるけれど、単なる白いノートをもらうだけでも、そこにシールをはればそれを思い出すきっかけになる。そこにもっと素敵なアイデアがあればいいなと思います。3分間トークは、3分の発表で十分。事業目標の4-1について、ポケット学芸員について英語の音声ガイドがついたとのことだが、次に中国語なのは、県内に住んでいる人なのか、観光で来る人の統計なのか、何か基準があるのでしょうか。事業のまとめの図については、事業目標3は3つの項目でどれも上がっているのに、総合が上がっていない、斜め上は0.5、上向きが1とか、どのような基準なのかかわからない。

遠藤委員：お二人の委員から私が行ったことを具体的におっしゃっていただいたかと思います。おくすり手帳方式は、来場者に渡してしまっただけで企画ごとに貼ってもらって、何回かくれば何かもらえる特典とか、欲しい人だけでもいいし、楽しみになるし、記録にもなります。守山の図書館通帳は子どもたちが楽しそうにしている。おくすり手帳のアイデアがいい。マニアックな方は、それはそれで集まってくる。子どもが行きたいと言えば、大人もついてくるだろう。いろいろとアイデアは浮かんできそうに思います。

楊係長：全体の評価についてはご指摘の通りで、上げたいと思います。

芦谷係長：言語については、きちんとした分析をしているわけではありません。正直に申し上げますと作りやすいところから作っています。日本語はとにかく読み上げ機能を使って作りやすかったのと、英語は館内の学芸員にネイティブな方がいらっしゃるって作りやすい。中国語についても同様に館内の学芸員でみることができます。他は、例えば県内には南米系の方もたくさんいらっしゃるかと思いますので、少しずつ増やしていきたいと

考えています。また助言等いただければと思います。

荒井委員：ポケット学芸員ですけど、私は高齢者なので挑戦してみたが、できなかった。

やっぱり若い人が利用しているのでしょうか。それとどのような評価今得られているのでしょうか。

芦谷係長：利用調査については今時点で、できていません。ネット環境が悪かったのも、wifi を使って何かしようとすると思えない箇所もあり、改善したとはいえ、まだ 100% 使えるようにはなっていません。設備投資がある程度できた段階で利用者のアンケートで調べていきたいと思っています。できなかったのはどういった具合でできなかったのでしょうか。

荒井委員：進めていくとお金が必要というような表示がでてきたように思います。

芦谷係長：ポケット学芸員は、課金制度ではないので、wifi の設定等によるものかと思います。

中野委員：インスタグラムはやっているのでしょうか。

榊永課長：アカウントはありますが、まだまだ改善の余地があるかと思っています。

村上会長：他にご意見等ないようですので、続いて事業目標 5 と 6 について事務局より説明をお願いします。

榊永課長：事業目標 5 についてご説明申し上げます。事業目標 5 は、より多くの人が利用する博物館へということで、実施目標としましては、ICT を活用し、世界にデータを展開して、より多くの人の利用を実現するということになります。5-1 は、ICT を利用した博物館の魅力、つまり、博物館の紹介につきましては、琵琶湖の特徴がわかるページを博物館の公式ホームページに作成しました。琵琶湖の大きさや流入河川の数等数値だけでなく、生き物の写真や図なども使ってわかりやすいページとしております。SNS については、フェイスブックやエックスを中心として博物館の様々な活動紹介を週 1 回以上行いました。多くの情報発信により登録者も徐々に増加しているところです。英語による発信も頑張っておりまして。5-2 については、12 月に過去 15 年間のアンケート調査の集計をいたしました。現在はその分析と評価について検討しているところになります。5-3 については、来館しやすい環境の整備ということで、駐車場から博物館までの経路について、今でも分かりづらいということなので、引き続き良い方法を検討しているところでございます。

山田総務課長：事業目標 6 について説明します。この 4 月に着任しました総務課長の山田です。どうぞよろしくお願いします。6-1 について、博物館の活動を安定して継続するというので、実施目標は大きく 2 つに分かれます。1 つ目は老朽化した施設の改修や災害に強い体制の確立を進めるということ。そしてもう 1 つが、活動基盤の安定のための様々な支援を受ける仕組みづくりを進めるということになります。この大きく 2 つの点について内部評価を行うわけですが、1 つ目の老朽化対策において当館の基幹部分については、県庁で県全体をグリップして経済的に更新を進めていくということになっており、基幹部分ではない空調やエレベーターなどは当館独自で計画を立てることになっています。そうした中で、6-1 老朽化した施設の改修と災害への備えということで、ハード面では水族展示室入り口付近のトイレの修繕の実施、そして今後の設備修繕のための調査を実施しました。今年度の予算では、トラックヤードのシャッター、エスカレーターやエレベーターの更新設計を実施します。2 つ目のソフト面については、設備ではなく、どのような体制づくりをするか、ということで、大雨や地震など、そういった災害があった際の危機管理体制の整備に着手しました。実際にマニュアルの整備などを行い、とりまとめて 1 つの完成形にするのが難しかったというのが昨年度の実績になります。それを受けまして、一旦作り上げたマニュアルをもとに、ちょうど 1 週間前の 7 月 19 日に災害訓練を行いました。そこでまた様々な課題がありました。いったん作ったマニュアルに対して、どのように改善していけばいいかということの意見を集めて、さらにより良いマニュアルに繋げてまいります。次に実施目標の 2 つ目ですが、6-2 のところで、安定した基盤、活動基盤を確保する仕組みづくりということでございます。博物館の経営、お金の部分でどうしていくのか、ということですが、昨年度は大きく 2 つの新しい取り組みを進めました。そのきっかけとなったのが、2 月 10 日に水槽の破損事故がございまして、このピンチをチャンスととらえて 1 つ目はクラウドファンディング、それ以外に水族展示に対する寄附支援制度を新たに作りました。こちらは 14 者から 1,200 万円ほどのご寄附をいただいたところでございます。今年度はクラウドファンディングの第 2 弾、そして昨年度作った支援制度を引き続き実施しますのでよろしくお願いします。以上で説明を終わらせていただきます。

村上会長：はい、ありがとうございます。私から質問がありまして、災害時の訓練をされたということですが、どういった災害を想定して実施されたのでしょうか。

山田課長：大きく2つありますが、まずは地震が発生した時の初動訓練でございます。2つ目は、実際に火事が起こったことを想定して、来館者の皆様、職員を含めて、どのように皆様方を誘導して避難場所まで移動していくのかということを取り組みました。

村上会長：そういった訓練が、水槽の破損という事故が起こった時に役に立ったのか、訓練後に改善したという点があれば教えてください。

山田課長：水槽の破損については、早朝8時くらいで、まだ開館する前であり、幸い来館者に影響はありませんでした。今回の訓練では、来館者がいらっしゃる前提で災害が発生したということで実施しています。

村上会長：はい、ありがとうございます。先に質問させていただきましたが、みなさまからのご質問等お願いします。

遠藤委員：亀田館長から冒頭の説明があったとおり、雨漏りがあったとか、建物の現状に課題が大きいとか、予算取りなどの計画があるだろうと思うが、やっぱりこういうところに課題が大きいとか、我々にわかるよう現状報告をお願いしたい。

山田課長：修繕計画につきまして、どのように予算要求していくのかと申しますと、実際に修繕するには県からの一般財源を予算化して、我々の施設に対して修繕していくことになります。そのために、まずは事前に知事部局側に我々の建物の現状をしっかりと説明して、どういう状況であるのかということを理解していただいて、それで予算が付くことができます。我々の中でもどういった優先順位で進めていくのかしっかりと示して、そのうえで計画的に直していきますということを見せて、財政課と協議する必要がございます。今年度は昨年度実施した老朽化状況の調査を踏まえて、財政課と調整を進めていきたいと考えています。

遠藤委員：雨漏りは大きな課題ではないか。

山田課長：もちろん課題でございます。他にもたくさんあるので、優先順位をたてて計画してまいります。

田渕委員：クラウドファンディングにどういう人が寄附しているのかをしっかりと調べてもらって、クラウドファンディングを始めますの会見はあったが、こんなにたくさんの方が寄附をくださって、こんなに集まりましたっていう会見もするべきではないか。施設改修は県全体の問題なので、知事へのアピールが重要になる。支援者が多いとかファンが増えたというようなことを、知事会見で言ってもらふことのレクチャーでそのことを

伝えるチャンスがあると思います。こんなことを知事が言うのか、ということを言われるかもしれないが、知事の頭には残る。やっぱり知事が、こんなにたくさんの来館者がいて、職員さんがこんなに苦労されている等、あまり響いてないように思います。

杲副館長：ありがとうございます。当館のクラウドファンディングにつきましては、県庁では成功例ということでよく言われますが、我々は成功という言葉を使いたくない。かなりご支援いただいているのは事実ですし、県庁の方では稼ぐ力という言葉をよく使っていますけれども、その表現を使うなら成功例ということで紹介されたくない。講演してくれという依頼も受けますが、支援の気持ちとして、水槽が割れたときに相当なメッセージをいただきましたので、これを形にするにはどういう手法が一番いいかということで、見える形でご支援いただくというのはお金だけじゃなくて、どういう形の水槽がいいかというようなことも含めて、クラウドファンディングに着手させてもらおうということで、我々は着手しました。小さな額でもいいし、たくさんの方々にご支援いただきたいという趣旨でやりました。支援者からの熱いメッセージも頂いています。水族への応援メッセージも書いてもらったりしています。そういうものを残して一旦整理して、知事にも見てもらいたいと思っています。第一弾の返礼もまだ終わっていないので落ち着いたら、博物館の活動の報告と合わせて知事へ報告したいと思います。博物館がやっていることや苦労が知事に知られていない。子ども、子ども、子どもと知事が提唱していますが、博物館の取組でも子ども施策を相当やっています。その看板を変えて、子ども施策として打ち出すことで、知事からの評価も変わってきます。雨漏りの話がありましたが、展示室内はリニューアルしたものの、館の部分は改修できていません。先日の雨漏りでも残っているスタッフ総出で対応いただいたところです。C展示室は漏電で一時的に閉鎖しておりました。思い切って閉鎖した方が知事に伝わるようにも思います。滋賀県に来られた来賓はよく琵琶湖博物館に来られます。そんなところで雨漏りしてもいいのか。今はだましだましやっています。しっかり整理して報告をしていきたい。お金に繋がるよう進めていきたいと思っています。

村上会長：一昨日の雨漏り箇所は、この後企画展示を見に行くときに現場を見られるでしょうか。

杲副館長：まだ残っています。天井版を開けていますが、一部はまだ閉鎖しています。今の時代に雨漏りをするのか、という思いです。そういった現状もしっかりと伝えていき



たいと思います。

澤田委員：数字でみる琵琶湖博物館の活動について、知事は子どものことになったら、という話がありましたが、交流の部分については、学校教育やこども施策に関係する部分については、分けて示したほうがよいのではないのでしょうか。博物館の応援団の先生を増やしていくことを、研修などでできることがあります。免許制度がなくなった代わりに、受けた研修について評価するような制度になっています。先生が研修を受けると、琵琶湖博物館サポーターの先生に認定されとかがあれば、気持ちが変わってくると思います。山川さんの記事にある化石林の話を先生が話をして子どもたちが化石に興味をもったということもありました。子どもたちへそういったアピールができていますので、集計するときもそういうまとめをしてアピールをすることが大事だと思います。研修についても、博物館で教育センターが実施してやっていってもらえる。そういうところで、ちょっとだけでも、教員に示すことでそれを地元のこととして授業でつかえば、子どもたちへのアピールになるように思います。

泉副館長：数字でみる琵琶湖博物館は1枚にまとめていますが、年報にはもっと細かく示しているので、区分けは変えることもできますので中で話をしたいと思います。交流の部分は力をいれろという意見がありますが、博物館準備室の時代から交流は大事にしています。地域の人たちと一緒に学ぶ事で、教えてもらうことも多い。今は簡単に区分けしているが検討します。

澤田委員：みんなでつくる博物館ということだった。ダブルカウントになってもいいので、別枠で示していったほうがいいと思います。

泉副館長：教員研修については、たくさん来てもらっています。中学でも高校でも、クラブとかで来てもらっている人もいます。教員研修を授業にどう活かすのか、が課題ですが、その点を博物館にいる教員に考えてもらおうと思います。

鹿田委員：委員になって、こんな素晴らしい博物館でも予算がないのがわかりました。学芸員の方々が十分頑張っていることもわかりました。しかし、それがちゃんと届いていない、というのが委員の方々の意見でわかりました。そういうことを発信していくようなプロデューサーのような人を雇うことができないのでしょうか。そういうプロの人の手があるといいと思います。展示は氷山の一角だろうというのもわかった。研究は、みなさんがどれくらいできているのでしょうか。

梶副館長：PR をプロの目線で、というのはやっていきたいと思います。出し方について、研究調査を知ってもらいたい、ということがあるので、キャラクターの活用などで一過性であってもアピールすることが大事かと思います。県庁ではこれだけ頑張っているのにあまり知られていません。トイレの水が止まる。雨漏りがある、そういうことも訴えていきたいと思います。広報営業戦略を今年度つくって進めていこうとしています。長期計画の中で年次計画を立てながら、まず我々ができることをやっていきたい。資料提供はたくさんやっていますがうまく取り上げてもらえていないこともあります。知事会見でも取り上げてもらえるよう進めていきたい。研究についてはこれから説明してもらいたい、予算がない、時間がない以外の説明を期待します。

芳賀部長：研究時間がない、といっても、いろいろと調べて消化された部分を皆さんにお伝えすることができるという形なので、背景としては何十、何百時間というのがあります。研究専念日を設けてやっていますが、時間が細切れになるということが困ります。なるべく細切れにならないようにすることも必要かと思います。施設の老朽化対応などについてもそれにあたります。

亀田館長：プロデューサーのような役割ができる人がいれば、我々では気付かないこともできる可能性があると思います。広報では、委託で専門の業者に PR してもらっていますが、予算的には継続できない可能性もあります。博物館で必要な専門技術を持つ人材については、どこの博物館でも人が足りない、という悩みを抱えているところが多いです。文化庁では、そういった人材を雇える仕組みを考えているようですので、それもうまく使いながら、やっていきたいと思います。

鹿田委員：私の提案は、学芸員ががんばれではなく、そういう人がいればいいのに、ということだったので、学芸員のみなさんには展示をつくったり研究を進めたりができるようにしてほしいと思います。

村上会長：はい、ありがとうございます。本日の意見交換を受けまして、外部評価のまとめ方について議論したいと思います。まず確認ですけれども内部評価の対象は 2023 年度となります。この後見に行く企画展示は今年度ということで評価の対象が、昨年度の企画展示はお米展ですね、それなどを思い出しながら、昨年度の内部評価に対しての外部評価ということで、みなさんの方でこの様式に沿って、1 から 6 という項目にそって作成をお願いしたいと思います。前年度と同様に皆様からのご意見をとりまとめ、それらか

ら会長と布谷副会長に相談しまして、総評を作成していきたいと考えています。昨年と同じようなこうした方式で進めていくということでいかがでしょうか。その点についてご意見ありましたらお願いします。

村上会長：それでは締め切りとしては、8月19日という日付をいただいていますのでよろしいですかね。今回の説明をもとに、みなさまに外部評価をお願いしたい。それらがでてきた段階で、私と副会長の布谷さんとで、総評を書きたいと思います。よろしくお願いします。

## ○議題2：その他

村上会長：議題1は以上とします。議題2として、博物館全般について、その他として意見は何かありますでしょうか。

田渕委員：先ほど、村上会長から災害時に地震や火事について、水槽の件で、たまたまいなかったという回答があったが、そういう意味ではなく、人がいた場合にはどうするのか、ということを考え、実施する必要があります。今回の雨漏りについても、そういうところを苦労されているとか、みんなで支えています、そういうこともSNSで出せばいいんじゃないかと思います。自分の娘は保育士をしていますが、やっぱり学芸員さんの作るポップははととても良いという意見を言っていました。何が良いかという具体的なことはわからないが、そういうことも含めてSNSで発信してほしい。私は今回で任期満了になるので、意見を言わせていただきました。

遠藤委員：災害への対応について、我々事業者は義務化されていますが、博物館はBCPを作る義務はあるのでしょうか。

杲副館長：義務はありませんが、今作ろうとしています。我々の課題ということで、水槽が破損したとき、幸いお客さんがいなかったという発言を確かにしましたが、そんなに軽いつもりではありません。幸いお客様がおられなかった、スタッフもいなかったということは事実です。相当離れた壁に刺さっているぐらいですから、お客さんがおられたら、大惨事になっていたのは間違いないと思いますので、それも踏まえて、BCP(Business Continuity Planning: 事業継続計画)もそうですけれども、消防対応のマニュアルを、地震とか火災とか、災害バージョンに合わせたものを再整備しているところですので、しっかりそれを踏まえて、我々だけではなく、お客さん、来館者の皆さんに安全確保して

もらわないといけませんし、各展示室に赤い服を着た展示交流員がおられますが、そういう方も、率先して誘導してもらわないといけませんので、一緒に訓練したり、情報を共有して、安全確保したいと思いますし、先ほどの雨漏りもそうですけれども、朝一番に起こったり、夜中に起こったりしますので、お客さんがおられるときに大作業ではなかったりしますけれども、もしそうなった場合にお客さんをどう避難してもらうか、逃げてもらうかというようなことも、視野に入れた後に進めていかなければいけませんし、それ以外の災害への対応についても再整備しているところです。来館者の方々に安全確保をする必要があるので、展示交流員さんと一緒に訓練をしています。今回停電していたことも再開したことも、すぐ SNS で発信をいたしました。琵琶湖博物館をどんどん露出していきたいと思っています。またでできた、と思われるくらいやりたいと思います。

村上会長：まだまだ意見はあろうかと思いますが、時間になりましたので、以上としたいと思います。進行を事務局にお返ししたいと思います。

## ○閉会

杲副館長：皆さまからいただいた意見を活動に活かしていきたいと思います。口だけではなく、館内のスタッフに共有して改善していきたいと思います。今回の議事録については、3週間を目処にみなさまに確認いただきたいと思います。今回で現在の任期の方は最後となりますので、亀田館長から挨拶を申し上げたいと思います。

亀田館長：有意義なご意見をどうもありがとうございました。今回委員の皆様からの共通した意見として、「繋がり」という言葉と「継続」、「蓄積」がありました。そういったところを重視して活動してはどうかという意見が多かったように思います。館内においても、それぞれの係で頑張ってやっていますけども、係同士ですとか、あるいは年度ごとの企画展どうしのつながりとか、意識して業務を進めることが必要ではないか、それが外への活動にもつながるのではないかというふうに感じました。また、先ほど話がありましたが、今回任期満了あるいはご退任される委員がおられます。田淵委員と鹿田委員、公募委員の井本委員、遠藤委員、そして本日欠席されていますが、中川委員と岡田委員でございます。皆様にはこれまで大変有意義なご意見をいただきました。委員としては今回が最後となりますが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。改めて、これまで本当にどうもありがとうございました。それでは、これで第一回の協議

会を終了したいと思います。本日は誠にありがとうございました。

(閉会后、企画展担当者による企画展示の案内を実施)